

新潟市急患診療センターだより

第6号 2017年 10月



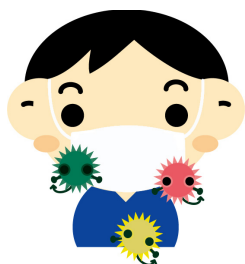
第6号にあたって

さわやかな秋がやってきました。読書の秋、スポーツの秋、味覚の秋、行楽の秋など楽しむことも多いと思います。次第に涼しくなりますので、風邪など引かぬよう、またスポーツなどでケガなどないように十分お気をつけください。11月になりますとインフルエンザのシーズンがやってきますので、今号では、病気の知識として、インフルエンザと直ちに適切な治療をしないと危険な急性大動脈解離を取りあげました。Q&Aには予約・診察の順番・学校でのケガの保険について、そして最終ページには、診療時間、交通アクセスなどが掲載されていますのでご利用下さい。

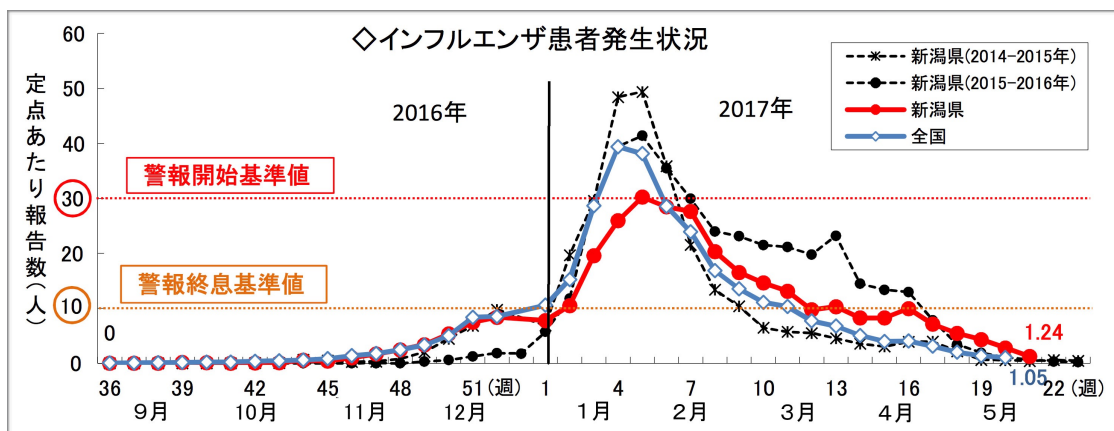


病気の知識

インフルエンザ



- ・インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。
- ・普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。
- ・インフルエンザに感染すると1～5日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱や関節痛などの症状が現れます。
- ・健康な人であれば、その症状が3～7日間続いた後、治癒に向かいます。
- ・気管支炎や肺炎を併発しやすく、脳炎や心不全になる場合もあります。
- ・インフルエンザウイルスには強力な感染力があり、いったん流行すると、年齢や性別を問わず、多くの人に短期間で感染が広がります。
- ・日本では毎年11月～4月に流行が見られます。図には最近の新潟県の流行時期をのせましたので参考にして、ワクチンは流行に間に合うように早めに接種して下さい。



【症状】

- ・熱がある
- ・関節痛
- ・体がだるい
- ・のどが痛い
- ・頭が痛い
- ・咳が出る
- ・息が苦しい
- ・鼻がつまる
- ・鼻水がでる など

【診断】

- ・診断には臨床症状と共に、インフルエンザウイルスを検出する迅速キットを用います。この際、綿棒を鼻の奥に入れて粘膜をこすするため不快に感じますが、ウイルスの検出率を高めるためです。
- ・ウイルスに感染して時間が経っていない場合は検査結果が陽性にならない場合もあります。
- ・そのため、発熱などの症状が続く場合は、発症後48時間以内に再検査します。

【治療】

- ・抗インフルエンザウイルス薬には、「タミフル」や「リレンザ」、「イナビル」などがあります。
- ・「タミフル」や「リレンザ」は1日2回内服、もしくは吸入し、5日間の治療期間が必要ですが、「イナビル」は気道に直接作用する吸入薬であり、単回投与で治療が完結します。
- ・「タミフル」に関して、因果関係は不明であるものの、10歳以上の未成年患者が服用後に異常行動を発現し、転落などの事故に至った例が報告されているため、この年代の患者には、原則として「タミフル」の使用が差し控えられています。
- ・一方「イナビル」は、5歳以上が適切に吸入できると示されていますが、吸入できるならば年齢制限はありません。
- ・ただし、これらの抗インフルエンザウイルス薬は発病後 48時間以内に服用しないと効果がありません。

通常時間に病院へ



急患センター等へ



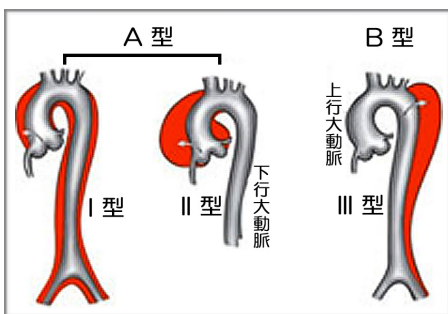
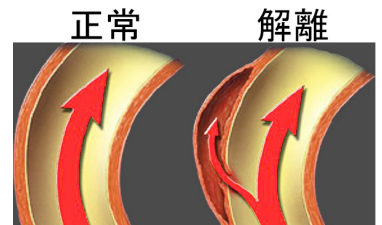
★受診する場合は、本人、付き添いともマスクを着用して下さい。

- ・小児の場合、急患診療センターでは休日明けまでの分しか処方できません。休み明けに通常の医療機関を必ず受診して診察を受けてください。
- ・他の人に感染する可能性があるため、解熱後も学校や仕事は発症後、5日間は休む必要があります。診断書や許可証は近くの医療機関でもらってください。

急性大動脈解離

【急性大動脈解離とは】

- ・大動脈の壁は内膜、中膜、外膜の三層構造からなっています。大動脈解離とは大動脈の壁に亀裂ができ、そこから入り込んだ血液により、大動脈壁（中膜）が剥がれていく恐ろしい病気です（右図）。大動脈が破れるわけではなく、血管の壁が割かれることにより二重構造になります。



- ・大動脈解離は、何の前触れもなくある日突然、かつて経験したことのないほどの激しい胸や背中での痛みで発症します。
- ・発症すると、大動脈から分かれる重要な動脈が圧迫されて詰まり、大事な臓器に血液が流れなくなることがあります。治療が行われなければ48時間以内に約半数の患者さんが亡くなるという恐ろしい病気です。
- ・大動脈解離は解離している部位によって分類されます。左図に示すようにI型、II型、III型に分かれます。また、I型、II型を合わせてA型、III型をB型とする分類もあります。

- ・A型は上行大動脈に解離があるものであり、B型は下行大動脈のみに解離があるものと言えます。

【症状】 **突然みられる激しい胸の痛みや背中での痛み**が大部分の人にみられます。しかし、下肢の麻痺や腹痛、意識障害で発症することもあります。

【原因】 多くは動脈硬化が原因で中高年にみられますが、先天性のマルファン症候群の若年者にみられることもあります。

【治療】 一般的に、急性期で上行大動脈を含む解離（A型）であれば、緊急手術となります。下行大動脈から始まる急性解離（B型）は、入院し安静と血圧管理などの内科的治療になります。



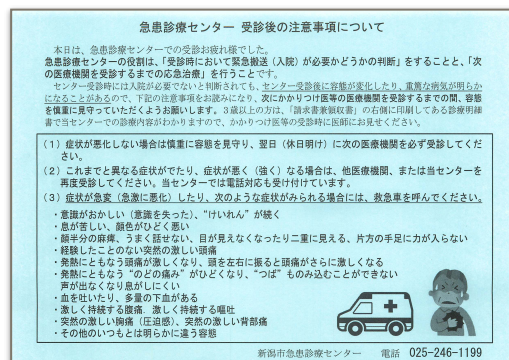
- 突然の胸の痛みや背中の痛みがみられ改善しない場合、平日日中であれば、すぐに設備の整った医療機関を受診して必要な検査・治療を受けて下さい。



- かつて経験したことの無いほどの激しい胸や背中の痛みが突然みられ、改善せず続くようであれば、急性大動脈解離のほか急性心筋梗塞、肺梗塞など重篤な疾患のこともありますので、ただちに救急車を呼んで医療機関を受診して下さい。

「受診後の注意事項について」の配布について

急患診療センターの役割は、「受診時において緊急搬送(入院)が必要かどうかの判断」をすることと、「次の医療機関を受診するまでの応急治療」を行うことです。発症後間もなくセンターを受診され、その時点では入院は必要でないと診断されても、帰宅後に容態が変化したり、重篤な病気が明らかになることがあります。そのため、受診された方全員に「受診後の注意事項について」の用紙を会計時に配布して、帰宅後に次の医療機関を受診するまでの間、容態を慎重に見守っていただくお願いをしていますので、よくお読みになって下さい。



Q & A (質問に答えて)

Q1：電話等で診療の予約はできますか？

A1：急患診療のため電話等での予約はできません。各診療科の診療日と受付医時間をご確認のうえ直接受診して下さい。ただし、症状が激しい場合（意識がおかしい、呼吸が苦しい、顔色がひどく悪い、マヒがある、突然で激しい胸痛・背部痛・頭痛など）には救急車を呼んで下さい。当センターを受診すべきかどうか判断がつきにくい場合がありますでしたら受診前に電話でご相談下さい。

Q2：診察まで長時間待たされたことがありました。診察の順番や待ち時間について教えてください。

A2：診察の順番は診療科ごとに原則受付順ですが、緊急性がある患者さんの場合は優先的に診察になります。インフルエンザの流行期や年末年始になりますと、2～3時間以上の待ち時間になることもありますので、ご理解ご協力をお願いします。待っている間に具合が悪くなった場合には職員にお申し出下さい。また、できるだけ日中にかかりつけ医等を受診するようお願いいたします。

Q3：学校でケガをして急患診療センターを受診しました。保険給付があると聞きましたが手続きについて教えてください。

A3：日本スポーツ振興センターの「災害共済給付制度」に加入している場合には、学校（園）の管理下での災害（授業中、登下校中、課外指導中などのケガ、熱中症、食中毒など）に対し、基準に該当すれば給付金が支給されます。受診の際、受付で「学校（園）の管理下での傷害等」であることをお知らせ下さい。

後日、学校（園）の先生から受け取った「医療等の状況」の用紙（医療費等の証明を行うもの）を、急患診療センター受付までお持ちいただければ無料で証明します。手続きの詳細については各学校（園）にお問い合わせ下さい。

診療時間

★土曜日午後3時～10時の「整形外科」は在宅当番医となります。（在宅当番医は毎回替わりますが、新潟日報土曜日朝刊の紙面、ホームページでは「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜(★)	午後10時～翌日午前9時 (受付時間：午後10時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 (受付時間：午後3時～午後9時30分)
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

涼しくなってきました。インフルエンザワクチン接種を行う場合は流行前をお願いします。また、スポーツでのケガや旅行などでの交通事故には十分気をつけてお過ごし下さい。

新潟市急患診療センター

ホームページ <http://www.niigata-er.org>

新潟市医師会による救急疾患検索サイト

<http://www.niigata-er.org/search/>

発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914 新潟市中央区紫竹山
3丁目3番11号

TEL 025-246-1199